

今年度の文字文化財研究所の活動

愛知県立大学附属図書館との企画展示

・三月二十三日～五月十四日

「企画展 展示 古典籍の世界～原本、デジタル、そしてWebへ」

愛知一中（現愛知県立旭丘高等学校）旧蔵書の撮影

尾崎知光先生寄贈図書調査

現在目録作成中

書名については今年度中に公開予定

荻野検校顕彰会との連携

・六月十二日

第十六回平曲鑑賞会

重衡を語る 平家の悪行を背負った武将の生涯

講演「平家物語の平重衡」

（名古屋女子大学名誉教授 大森北義）

平曲「海道下」

（新潟大学教授 鈴木孝庸）

平曲「重衡被斬」

（平家琵琶相伝者 橋本敏江）

・十一月七日

第十七回平曲鑑賞会

能楽にも登場する平家の女性物語

講演「能の本説（典拠）としての平曲」

（名古屋女子大学教授 林和利）

平曲「横笛」

（国風音楽会会長 今井検校勉）

平曲「小原御幸」

（平家琵琶研究保存会会長 館山宣昭）

科学研究費補助金基盤研究S「戦に関わる文字文化と文物の総合的研究」（研究代表者 県立大学教授 遠山一郎）との連携

・六月十九日 於浄願寺

「映像と音で探る東西の地獄絵の旅―神曲と六道絵―」

（語り「野守」）（浄願寺住職 箕浦遵）

講演（第一部）

「日本の中世における地獄絵」

（愛知教育大学教授 鷹巣純）

「ダンテの神曲における地獄・煉獄」

（愛知県立芸術大学教授 水野留規）

シンポジウム（第二部）

「東西の地獄を比較する試みについて」

（講演者二氏と愛知県立大学准教授 中根千絵）

・十一月六日 於徳川園ガーデンホール

「公開講座家康の遺産」

「『続日本紀』の家持、『万葉集』の家持」

（愛知県立大学教授 遠山一郎）

「徳川家康の蔵書『駿河御讓本』」

（名古屋市蓬左文庫長 桐原千文）

・十一月七日 於徳川美術館講堂

「公開講座家康の遺産」

「家康の遺産と尾張徳川家の名宝」

（徳川美術館副館長 四辻秀紀）

・十一月十四日 於愛知県立大学

「公開研究集会 日本近代文学と戦争―十五年戦

争」期の文学を通じて―

午前の部

「十五年戦争期文学における混血表象―石川淳、白

描」・金史良「光の中に」を中心に」

（愛知県立大学准教授 山口俊雄）

「詩にあらわれた〈神〉たち―戦時下、そして戦後」

（愛知県立大学教授 宮崎真素美）

午後の部 一

「日中戦争期の文化抗争―帝国のメディアと文化

工作のネットワーク」

（東京外国語大学准教授 米谷匡史）

「戦争表象における前線と銃後―詩歌を中心に」

（名古屋大学教授 坪井秀人）

「プロレタリア文学における十五年戦争と日常性」

（シカゴ大学教授 ノーマ・フィールド）

午後の部 二

パネルディスカッション

・十二月十一日 於徳川園ガーデンホール

「公開講座源氏物語の世界」

「『源氏物語』と『いくさ』―薬子の変をめぐって―」

出版

- ・ 愛知県立大学教授 久富木原玲
「『源氏物語』の女たちの〈いくさ〉―勝ち組・藤壺の宮と負け組・弘徽殿の女御―」
(駒澤大学教授 鈴木裕子)
- ・ 十二月十二日 於徳川美術館講堂
「公開講座源氏物語の世界」
「『絵入源氏物語』の出版と普及」
(帝塚山大学教授 清水婦久子)
- 「源氏絵の江戸初期―コード化と浮世絵化―」
(実践女子大学教授 仲町啓子)
- ・ 文字文化財研究所
『愛知県立大学 文字文化財研究所年報』第3号
(平成二十二年三月二十五日発行)
平安末期の山林寺院と地域社会―三河国の秘められた文字史料探求―
(上川通夫)
- 和泉式部歌の〈雪〉―消えゆく命の象徴として―
(芝紗耶香)
- 形代としての浮舟に見る神道と仏教―『源氏物語』

宿木巻における薫と中の君の会話から―

(方国花)

神獸「白澤」と文化の伝播

(熊澤美弓)

文字文化財研究所の活動実績と計画

文字文化財研究所活動報告

島津忠夫氏講演「日本文学―作品の成立と諸伝本―」によせて

(浅井圭子)

ひとこと余計な太宰治

(山口俊雄)

愛知県立大学文字文化財研究所年報 第1号

愛知県立大学文字文化財研究所年報 第2号

大正期大阪における機械器具工場の地域的展開

(中島茂)

・ 科学研究費関係

『いくさの歴史と文字文化』(遠山一郎／丸山裕美子

編)

【基調講演】七世紀東アジアの戦と日本の成立

(笹山晴生)

第一部

唐前期における戦争と兵制

白村江戦場の位置と地形について
 (孟彦弘(翻訳) 吉永匡史)

白村江の戦をめぐる
 (李相勳(翻訳) 方国花)
 (倉本一宏)

七世紀の戦と律令国家の形成
 (丸山裕美子)
 第二部

白村江敗戦前後の日本の文字文化
 (犬飼隆)
 七世紀における文字文化の受容と展開 (鈴木喬)

古代朝鮮半島と日本の異体字研究―「部」の字を
 中心に―
 (方国花)

いくさが投げかけた影―額田王と天智天皇との万
 葉歌―
 (遠山一郎)

防人のたび
 (身崎壽)
 (三弥井書店 平成二十二年三月十九日
 二五〇〇円+税)

『いくさの物語と諧謔の文学史』(中根千絵編)

【基調講演】いくさ語りの機能―イーリアス、ロー
 ランの歌、保元・平治物語の比較を通して―

(フロランス・ゴイエ)

いくさ物語、叙事詩とそのパロディ (篠田知和基)

日本の戯歌―諧謔の詩の始原― (久富木原玲)
 中世のいくさ物語における笑いの文学史
 (中根千絵)

近世の絵本―諧謔の合戦物語― (小谷成子)
 『滑稽新躰詩歌』の登場―パロディから見る新体
 詩― (宮崎真素美)

散文と韻文と、緊張と諧謔と―石川淳の敗戦期ま
 での作品を通じて― (山口俊雄)

(三弥井書店 平成二十二年十月七日
 二五〇〇円+税)

寄贈

鈴木まどか氏より

『鳴海家本「平曲吟譜新集」に関する情報交流』

DVD・解題

(平曲研究所代表 鈴木まどか)